

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673300044
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス日吉
訪問調査日	平成21年5月28日
評価確定日	平成21年6月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4673300044
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス日吉
所在地	日置市日吉町吉利796 (電話) 099-246-8111
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年5月28日

## 【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.5人

### (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院 前原やすしクリニック 日置市立病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆっくり ゆったり けれどもしっかりと」、「あったか地域で あったか交流 みんなでつくろう あったかの輪」という基本理念のもと、年度目標の「えがおでがんばろう」を合言葉に、日々のケアが行われている。母体医療法人の医療、看護、介護の専門スタッフをはじめ、かかりつけ医等との連携による支援体制が整っており、利用者およびご家族からの信頼は厚い。近隣の方々を招いての茶話会やホーム行事への住民参加など、地域との交流も活発である。避難訓練では、地域住民も一緒に利用者の誘導訓練を行うなど、運営面での協力関係も深まっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特段の改善課題は挙げられていないが、評価結果を受けて前向きに質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票を渡し、各自が記入した上で管理者が取りまとめている。外部評価結果についても、課題の検討や改善策の実施について話し合い、前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催しており、自己評価や外部評価の結果報告、ホームの状況や行事等について報告を行っている。それぞれの立場の出席者から貴重な意見が出されており、運営に活かしながらサービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回のアンケート調査を実施し、ご家族の意見を積極的に受け入れる体制が整っている。また、意見箱の設置や家族会での意見の聞き取りも行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	定期的な茶話会やクリスマス会、ミニ夏祭りなどに地域の方々を招待したり、日常の散歩や買い物の際に挨拶を交わしている。また、地域の行事に出向いたり、祭りのメンバーに立ち寄ってもらえるなど、お互いに行き来できる関係が築かれている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての考え方を盛り込んだ、「あったか地域で あったか交流 みんなでつくろう あったかの輪」という基本理念に加え、「えがおでがんばろう」という年度目標を、職員全員で話し合っ作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティング等、職員が一堂に会する場面で理念の唱和が行われ、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的な茶話会やクリスマス会、ミニ夏祭りなどに地域の方々を招待したり、日常の散歩や買い物の際に挨拶を交わしている。また、地域の行事に出向いたり、祭りのメンバーに立ち寄ってもらえるなど、お互いに行き来できる関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価票を渡し、各自が記入した上で管理者が取りまとめている。外部評価結果についても、課題の検討や改善策の実施について話し合い、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しており、自己評価や外部評価の結果報告、ホームの状況や行事等について報告を行っている。それぞれの立場の出席者から貴重な意見が出されており、運営に活かしながらサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での行き来に止まらず、市役所支所に直接出向いたり、こまめに電話連絡するなどして、日常的に連携が取れる体制を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りのほか、利用者毎の近況報告を写真入りで作成してご家族に送付している。金銭管理については、面会時など機会ある毎に確認してもらっているが、遠方のご家族には郵送して確認をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回のアンケート調査を実施し、ご家族の意見を積極的に受け入れる体制が整っている。また、意見箱の設置や家族会での意見の聞き取りも行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員については、管理者が共に行動して利用者への紹介を行ったり、ケアプランとは別に、利用者個人毎の対応マニュアルを作成するなど、職員の異動によるダメージが極力少なくなるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を策定し、内部の勉強会はもとより、法人本部から提供される初級、中級等に分類した研修情報をもとに、職員の希望も聞きながら研修受講を促している。新入職員研修は、法人全体で実施されている。		さらなる資質の向上を目指して、職員の経験や知識、習熟度など、それぞれの段階に応じた計画的な育成に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと、日常的に情報交換を行っている。グループホーム連絡協議会などの研修会の際には、他の事業所と情報交換している。他県のグループホームから見学依頼があり、受け入れている。		法人内のグループホームに加え、法人外の同業者とも交流および情報交換の機会を増やし、お互いの質向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、なるべく本人およびご家族に見学に来ていただくようにしている。見学に来られない場合には、ホームから職員が出向き、情報収集や関係づくりが行えるように働きかけている。入居後も、自宅と変わらない環境づくりや、ご家族に電話連絡がいつでもできるように協力をお願いするなどして支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の苦労話や子育ての話、野菜のむき方や調理法などについて教えてもらいながら、お互いに学んだり支えあったりする関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見はもとより、行動や表情からも思いや意向を汲み取るように努めている。困難な場合にはご家族等から情報収集を行い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者およびご家族の意向を大切にしながら、医師をはじめとする関係者から情報収集を行い、それぞれの意見等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々および毎月のモニタリングと定期的な評価を行っており、本人の状態に変化があった場合や目標の達成状況によっては、随時見直し、現状に即した新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容については、ホームに出張して散髪してもらったり、行きつけの店に出かけてもらっている。病院受診やご家族との外泊や外出なども、要望に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者毎に希望するかかりつけ医が決まっており、基本的な病院受診はご家族の協力をもらい行っている。かかりつけ医との緊密な連携のもと、訪問診療や訪問看護など、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護の指針が作成され、入居時に説明が行われている。終末期に関する希望があれば、関係者間で話し合い方針を共有する体制はあるが、実際に希望を表明される方は、今のところ居られない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティング時に接遇やプライバシーについて学んでいる。また、職員は入職時に守秘義務についての誓約書を作成しており、個人情報の保護について法人全体として取り組んでいる。また、個人情報の利用に際しては、利用者およびご家族に同意書をいただいている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、起床や食事、入浴の時間帯は、その日の体調や気分など、本人のペースに合わせて過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせて食材の準備や調理、後片付けなどを一緒に行っている。基本的な献立は作成されているが、利用者から献立の希望があった際には、なるべく対応できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴の時間はあるものの、毎日、利用者に希望を聞き、時間や順番などに配慮している。拒否気味の方には、時間帯や対応者を考慮した上で、様子を伺いながらお誘いしている。浴槽には常にお湯を張り、いつでも入浴できるように準備している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の職歴や興味のあるものを把握し、畑づくりや料理の味付け、大正琴や習字、折り紙や体操など、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。ひと仕事終わったら、必ず感謝の言葉をかけるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、散歩や日常的な買い物、墓参りやドライブなどに出かけ、季節を感じられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されていない。一人ひとりの行動パターンを把握し、安全を確保した上で自由な暮らしができるように支援している。近隣の方々からも見守りや声かけなどの協力が得られるような関係づくりを行いながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。万一に備え、派出所には捜索用のファイルを届けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を消防署立会いのもと、地域の方と合同で行っている。毎月の茶話会や運営推進会議で、地域の協力体制について依頼するとともに、隣接する法人職員寮の協力も得て緊急時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士から献立表を提供してもらい、栄養バランスに配慮した食事を提供している。嚥下能力など利用者の力や状態に合わせて、食事形態も検討されている。食事摂取量および水分摂取量については毎日記録して、職員間で情報が共有されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あじさいの貼り絵など、季節を感じさせる飾りを取り入れながら、家庭的で温かい雰囲気のある共用空間となるように工夫している。リビングや和室にソファが設置され、一人ひとりのペースで自由に過ごせるように配慮されている。天窓からは明るい光が差し込み、風通しも良く、不快な音や光は感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具やテレビ、仏壇や写真など、家庭から使い慣れたものを持ち込んでもらっている。入居後も、利用者の状態変化に応じて家具等の配置を検討し、居心地よく過ごせるように工夫している。		